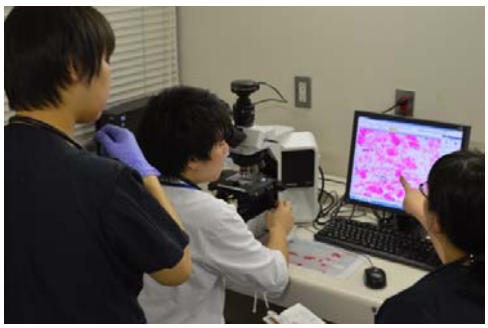
平成29年度
臨床研修プログラム



優しさと信頼のある卓越した臨床医の育成





岩手県立大船渡病院

診療科紹介・研修目的など

診療科：血液内科

血液内科では血球の生理的役割を知り、病的異常が生体にどうような影響をもたらすかを理解することが基本である。治療では抗腫瘍薬と免疫抑制剤の使用方法や支持療法について、入院診療を行う上で基本を身に付ける。

一般手技の他に、診断までに必要性がある場合には実技の機会をも設けたり、実際に骨髄穿刺液の塗抹標本の見方、血球表面マーカーや染色体異常の解釈について研修する。

悪性疾患の告知、患者および家族への接し方、病状変化に応じた状況把握と説明、終末期患者とその家族への対応等々に関して指導医、スタッフを通じて学んでいく姿勢が大切である。

GIO (一般目標)

適切に臨床判断を下し問題点を抽出しそれを解決していく能力を身につけるために、入院および外来患者の診療に携わる中で、血液内科の基本知識と診療技術を習得し、チーム医療の一員としての医師としての役割を学ぶ。

目　標

ユニット	血液内科	
一般目標 GIO	適切に臨床診断を下し問題点を抽出し解決していく能力を身につけるために、血液内科学の基本知識と診療技術を習得し、チーム医療の一員としての医師の役割を学ぶ。	
行動目標	想起・解釈・問題解決・技能・態度	分類
SBO1	病歴、理学所見をとりカルテに記載できる。	
SBO2	身体所見と検査データから問題点を抽出し、診断と治療のための計画を立案できる。	
SBO3	末梢静脈ルートの確保、骨髄穿刺、中心静脈カテーテル挿入、腰椎穿刺・髄腔内注射などの臨床手技を習得する。	
SBO4	末梢血塗抹標本、骨髄塗抹標本、表面マーカー、染色体異常等の所見を統合し、血液疾患が診断できる。	
SBO5	血液疾患の化学療法、免疫抑制療法について基本知識を身につける。	
SBO6	輸血療法、感染対策、抗菌薬使用、補液・高カロリー輸液、理学療法の意義等について習熟する。	
SBO7	上級医の指導のもと、患者の病状と治療に関する説明を適切に行うことができる。	
SBO8	チーム医療の一員としてコメディカルと協調して診療を行うことができる。	

研修方略　診療科：　血液内科

LS	該当 SBO	方法	研修時期	研修場所	時間	媒体	指導･協力者	予算(円)
1	1～3 6～8	SGD	毎日	病棟	随時	カルテ 臨床データ 検査器具 実技	指導医 看護師 薬剤師 栄養士 理学療法士	
2	4,5	SGD	30～60分	病棟	随時	成書 プレゼン	指導医	
3	4	SGD	30～60分	検査室 病棟	随時	塗抹標本 組織標本 成書	指導医 検査技師	
4	3、6	SGD	毎日	病棟	随時	実技	指導医	

5								

研修評価　診療科:血液内科

SBO	目的	対象領域	測定者	時期	方法
1、2	形成的	知識･解釈･想起	指導医 検査技師	研修中	観察記録 レポート
3	形成的	知識･技能･問題解決	指導医	研修中	観察記録 口頭試問
4～6	形成的	知識･技能･解釈･想起･問題解決	指導医 検査技師 薬剤師 栄養士 理学療法士	当科研修終了時	観察記録
7	形成的	知識･態度･問題解決	指導医 看護師	経験症例毎	観察記録
8	形成的 総括的	知識･態度･問題解決	指導医 看護師 薬剤師 検査技師 栄養士 理学療法士	研修終了時	観察記録

研修スケジュール　診療科：血液内科

	月曜日	火曜日	木曜日	水曜日	金曜日
午前	病棟研修	外来研修 病棟研修	病棟研修	外来研修 病棟研修	病棟研修
午後	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修 病棟カンファレンス	病棟研修 標本検討(必要時)

備考、その他：